

大学連携の経緯

鹿児島大学
理工学研究科

面高 俊宏



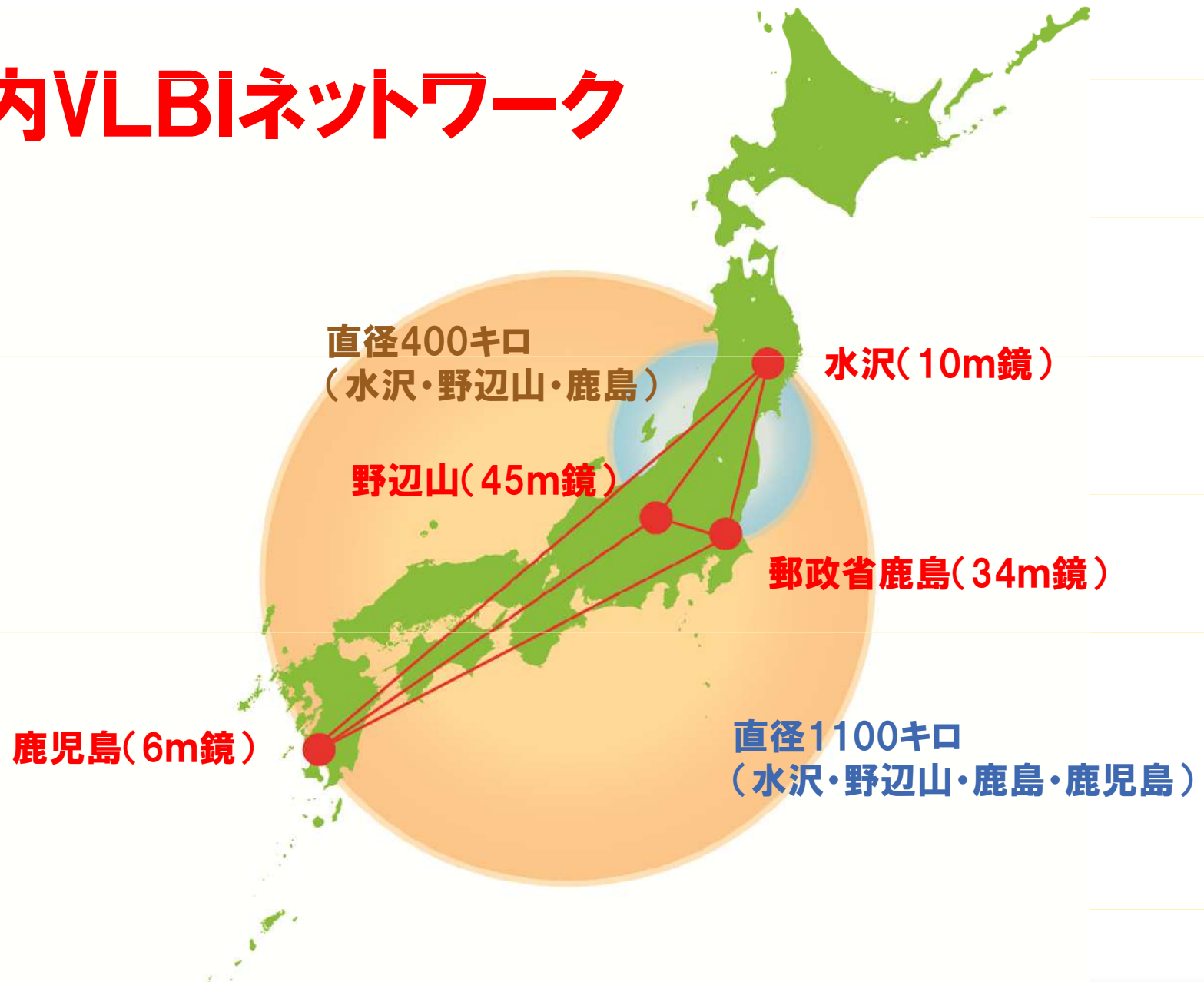
1992年12月、 6m電波望遠鏡が鹿児島島に！



大学院生が望遠鏡
の運用ソフトと
校正装置を製作。

赤崎市長に新品の10m望遠鏡をつくります…

国内VLBIネットワーク



VERA観測局配置図

Location of VERA

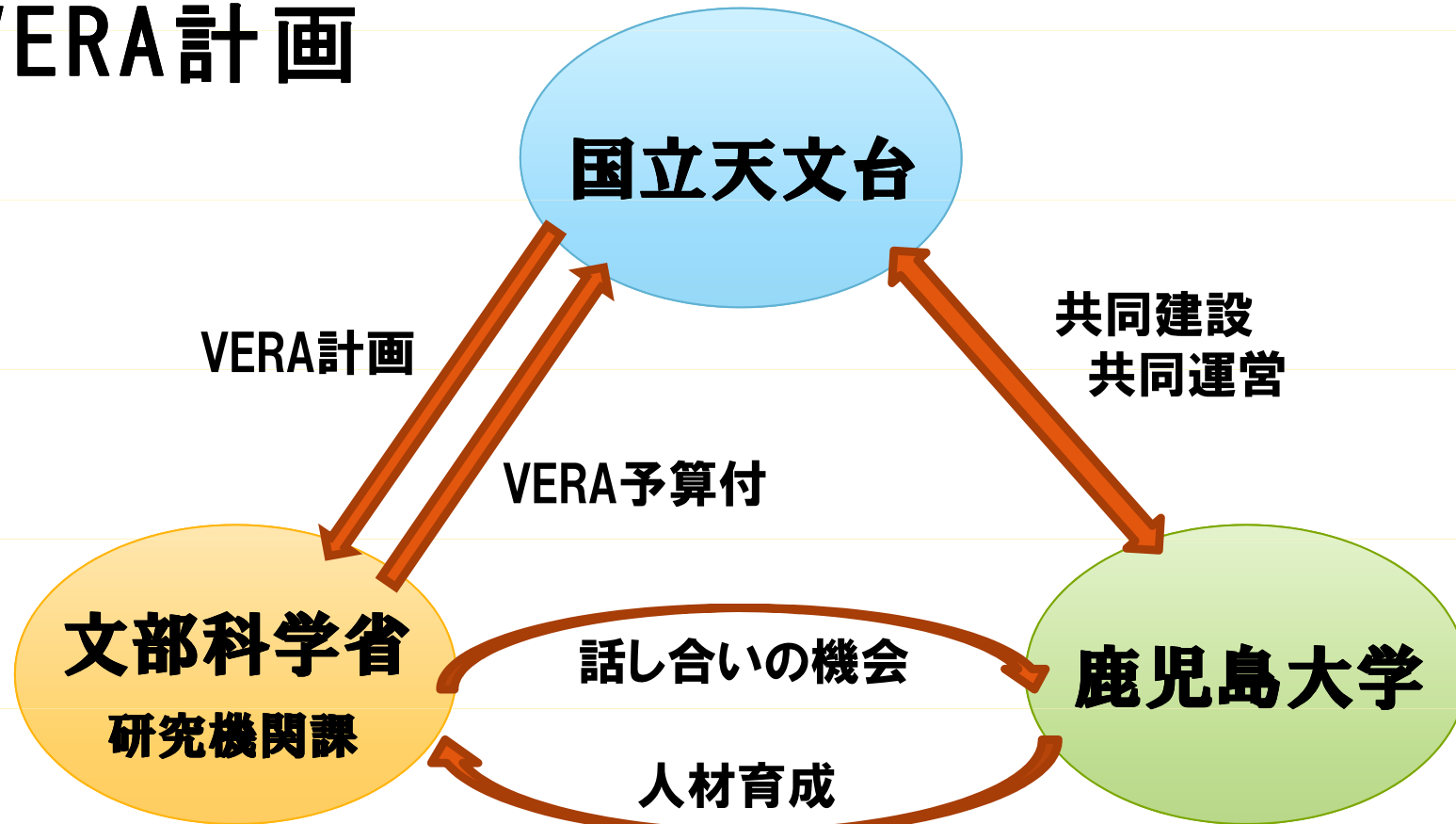
天の川銀河の 精密立体地図作り



国立天文台 VERA入来局



VERA計画



人材育成

- ・鹿大は、
共同研究、共同利用
- ・教員 8名
- ・宇宙コース(約20名)



**研究機関課の藤原課長が
入来局を来訪**

**1m望遠鏡の
維持の困難さを訴えた**



大学連携を予算化した

< 研究機関課の指導 >

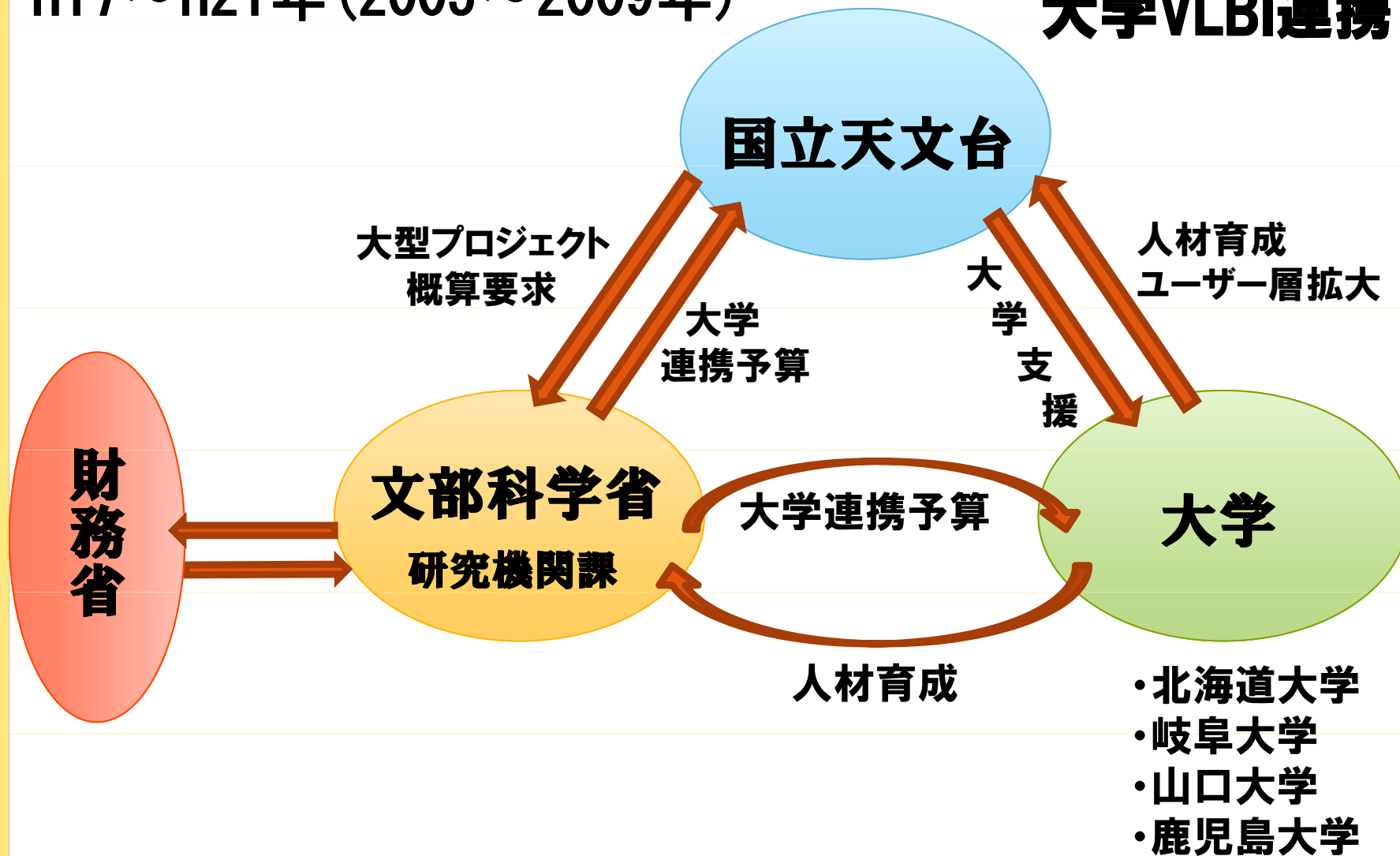
**各大学が大学連携予算の
大学での順位を高位に！**



国立天文台から概算要求

H17～H21年(2005～2009年)

大学VLBI連携





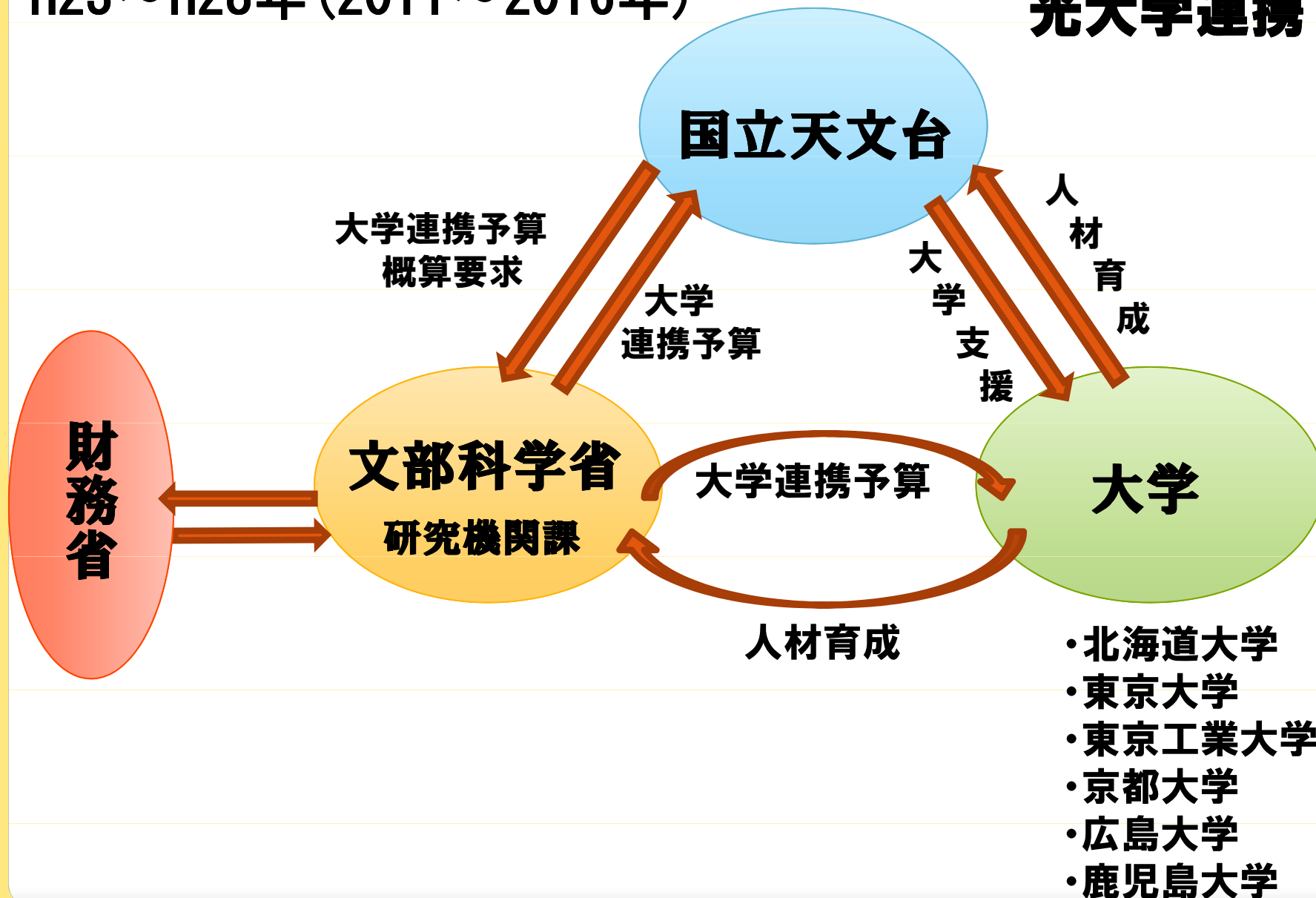
記者会見
（大学間連携記者発表より）

文部科学省 研究機関課

- **法人評価の自己評価書を読み、
大学連携が大きく取り上げられていない？**
- **大学で特化することの難しさ（お金をつけたのだが・・・）**
- **学長らが記者会見を行った**

H23～H28年(2011～2016年)

光大学連携



国立天文台

- 1、世界トップの装置
グローバル化
- 2、人材育成、ユーザー
大学の協力が必要

素粒子

- 1、世界トップの装置
- 2、応用
放射光施設
陽子線医療など

国立天文台に必要なこと

- 1、ユーザー層、人材育成を謳うには、大学の協力が必要

大学に必要なこと

- 1、学生を引きつけるには、visibleな天体施設が必要
- 2、一流の装置ではないので、成果を出すのは努力が必要
- 3、法人評価で大学の自己評価書に大きく書かれる努力

A large radio telescope dish is shown in the lower-left corner, its complex metal lattice structure extending towards the center. The background is a bright blue sky filled with soft, white clouds. The sun is visible in the upper right, creating a bright glow and casting a soft light across the scene. The entire image is framed by a yellow border at the top and bottom.

**大学連携
がんばりましょう！**